

酒類報告書作成プログラムの説明について

V 3 . 0

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	酒類報告書作成								
2									商品名
3									店名
4		明細連続印刷	1			直接印刷は1、プレビュー印刷は2。			入力
5									仕入
6						中分類の商品数は全部で	1		
7									
8		明細個別印刷	93			個別明細番号を指定。			報告
9									棚卸
10									明細
11									印刷表
12									作業表
13	その1								作業表
14									説明
15									表紙印刷
16									
17		大分類		中分類		小分類			
18		1 清酒		1～99	容量別区分	1～18	銘柄別区分		
19		2 合成清酒		1～99		1～18			
20		3 連続式蒸留焼酎		1～99		1～18			
21		4 単式蒸留焼酎		1～99		1～18			
22		5 みりん		1～99		1～18			
23		6 ビール		1～99		1～18			
24		7 果実酒		1～99		1～18			
25		8 甘味果実酒		1～99		1～18			
26		9 ウィスキー		1～99		1～18			
27		10 ブランデー		1～99		1～18			
28		11 発泡酒		1～99		1～18			
29		12 その他の醸造酒		1～99		1～18			
30		13 スピリッツ		1～99		1～18			
31		14 リキュール		1～99		1～18			
32		15 雑酒		1～99		1～18			
33		16 粉末酒		1～99		1～18			
34									
35									

酒類報告書を3カ月単位に集計するものです。

最初に、「商品名」に商品の種類を登録します。

コードは大分類(2桁)、中分類(2桁)、小分類(2桁)になります。

大分類での品数は 99*18=168 銘柄が作成できますが
商品の種類として1000種類でこれを超える場合は利用できません。
中分類(区分A)の商品単位で明細表を作成します。中分類(区分A)は同じ容量である必要があります。

平成26年9月

小林誠一郎

酒類報告書を3カ月単位に集計するものです。

その1 最初に、「商品名」に商品の種類を登録します。

コードは大分類(2桁)、中分類(2桁)、小分類(2桁)になります。

	大分類	中分類		小分類	
1	清酒	1~99	容量別区分	1~18	銘柄別区分
2	合成清酒	1~99		1~18	
3	連続式蒸留焼酎	1~99		1~18	
4	単式蒸留焼酎	1~99		1~18	
5	みりん	1~99		1~18	
6	ビール	1~99		1~18	
7	果実酒	1~99		1~18	
8	甘味果実酒	1~99		1~18	
9	ウィスキー	1~99		1~18	
10	ブランデー	1~99		1~18	
11	発泡酒	1~99		1~18	
12	その他の醸造酒	1~99		1~18	
13	スピリッツ	1~99		1~18	
14	リキュール	1~99		1~18	
15	雑酒	1~99		1~18	
16	粉末酒	1~99		1~18	

大分類での品数は $99 * 18 = 168$ 銘柄が作成できますが、商品の種類として1000種類でこれを超える場合は利用できません。

中分類(区分A)の商品単位で明細表を作成します。中分類(区分A)は同じ容量であることが必要です。

3カ月分の商品の仕入データ件数は1000件までです。

中分類(区分A)毎に、明細表を集計しますが、200件を限度とします。

(3ヶ月間の一分類の仕入件数が200件を越えてはいけません。)

中分類の区分は300件までとします。区分Bにある数値が中分類の数になります。

その2 「商品名」のM列に期首在庫本数(O列に期末在庫本数)を入力します。

その3 入力表に仕入明細を入力します。日付順でどんどん入力します。

仕入先別に印刷して伝票とつきあわせてください。漏れがあったら最後の行に追加入力したあとデータ並替をします。データの移動や削除はしてはいけません。全てのシートに共通です。

「報告書」の売上は 期首在庫 + 仕入 - 期末在庫 で算出します。

その4 「商品名」のO列に期末在庫本数を入力します。

中分類毎の明細を印刷し、記録を残します。

欠減商品がある場合には、「報告書」のK列とL列に入力します。

中分類毎の印刷物は欠減処理を自動的には行いませんので、手書きで修正をしてください。

欠減分を記入のうえ、売上をその分、減額してください。

その5 「報告書」、明細一覧表の印刷が終わったら、更新処理を行います。

「入力表」、「報告書」のデータクリア、「商品名」の残高転記を行います。

その他 「商品名」の変更は随時、必要な都度、行ってかまいません。中分類の区分Bの番号は変動します。

データ入力時はコード番号のみ意識してください。明細を印刷するときに区分Bの番号が必要になります。

「入力表」でのカーソルの移動は、ON OFF ボタンで変わります。

ON の場合は入力箇所のみ移動します。月の入力はオートフィルコピーを活用してください。

OFF の場合は、カーソルは飛ばずに1セルずつの移動になります。

このファイルでは、すべての必要な表(シート)は、表示しています。

保護を解除しての作業には責任をもちませんので、しないでください。挿入、削除、移動は厳禁です。

	平成 23 年 1 月	
酒類報告書作成 V1.0	穎娃町商工会	小林誠一郎
	e-mail	veq04063@nifty.ne.jp
酒類報告書作成 V2.0	平成 24 年 1 月	
	販売価格の欄を入れた。	
酒類報告書作成 V3.0	平成 26 年 1 月	
XLSM 形式で保存	棚卸表の式修正	

商品コードのつけ方

大分類は酒類の区分ですから問題はないと思います。

中分類のひとつづつは1銘柄だけを当てると99種類しか処理できません。

しかし、中分類のひとつには18銘柄を当てることができるので、

大分類ひとつについて $99 \times 18 = 1782$ 種類のコードを作成することが可能です。

小分類は中分類の中で取り扱える商品で、明細表の中に書けるスペースから

「 18 」 と規定しました。

あるひとつの中分類の容量は同一のものとし、在庫計算のために必要な処理です。

容量や度数で、中分類を定めますが、順番は適当でかまいません。

ただひとつの注意点はある中分類毎の小分類の銘柄が同じ容量の商品であることです。

中分類の順番が 1800mlの次が 720ml、その次が 900ml、また 1800mlなど、一向にかまいません。コードが自分で探しやすい方法、覚えやすい方法で作成すれば良いのです。地区別でアイウエオ順など。容量別アイウエオ順など。

中分類の数が連続している必要もありません。途中に入ることも考慮して飛ばして利用することも可能です。

区分 B がその中分類の数を表します。新製品の仕入により、コードが増加すると同一商品の区分 B の番号が変動します。

一年間、スタートから最後までコードの増減がない場合には、変動はしませんが、一般的に、区分 B の数字が特定の商品をずっと示すものと思わないでください。

今、利用している台帳の順番にコードをつけて、このファイルで整理すれば、手書き台帳との確認もできるので、コードの順番をあまり考えないでやってみてください。

このファイルには次のシートがあります。

MENU

商品名	基礎資料。商品名を入力し、コードを作成します。期首、期末の在庫の入力もします。
店名	仕入先商店名
入力表	日々の仕入のデータを入力します。
明細一覧表	中分類(区分 B)による整理一覧表。期末在庫を入力したときに、売上がマイナスになってはいけません。
報告書	入力したデータの集計一覧表。3 か月単位を基本として作成しています。
棚卸表	商品名にある、期首・期末の在庫を印刷する表です。
仕入明細	入力ミスをチェックするために仕入先ごとに明細を印刷します。
印刷表	商品の出納台帳。3 か月単位毎に印刷します。中分類(区分 B)による印刷。
作業表	印刷表のデータがここに作成されます。
作業表 2	在庫転記のための一覧表。
説明書	商品コードのつけ方の説明。
年間	3 か月ごとの数値を記録しておき、年間の報告にするものです。
セット物	中元やお歳暮のセット商品のコードを整理するものです。

酒類報告のデータ集計にはマクロは使用していません。

報告書のデータは、商品名と入力表からの集計です。個別のチェックに明細一覧表を利用。

シート 報告書

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1												
2			酒類容量一覧表				一覧表印刷			戻る		
3			商店名							年		月期
4												
5	NO	品名	繰越		仕入		販売		棚卸		欠減	
6			数量(本)	容量(ml)	数量(本)	容量(ml)	数量(本)	容量(ml)	数量(本)	容量(ml)	数量(本)	容量(ml)
7	1	清酒	0	0	0	0	0	0	0	0		
8	2	合成清酒	0	0	0	0	0	0	0	0		
9	3	連続式蒸留焼酎	0	0	0	0	0	0	0	0		
10	4	単式蒸留焼酎	0	0	0	0	0	0	0	0		
11	5	みりん	0	0	0	0	0	0	0	0		
12	6	ビール	0	0	0	0	0	0	0	0		
13	7	果実酒	0	0	0	0	0	0	0	0		
14	8	甘味果実酒	0	0	0	0	0	0	0	0		
15	9	ウイスキー	0	0	0	0	0	0	0	0		
16	10	ブランデー	0	0	0	0	0	0	0	0		
17	11	発泡酒	0	0	0	0	0	0	0	0		
18	12	その他の醸造酒	0	0	0	0	0	0	0	0		
19	13	スピリッツ	0	0	0	0	0	0	0	0		
20	14	リキュール	0	0	0	0	0	0	0	0		
21	15	雑酒	0	0	0	0	0	0	0	0		
22	16	粉末酒	0	0	0	0	0	0	0	0		
23		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24												

品名に基づき、在庫や仕入を関数で集計します。

	A	B	C	D
N	品名	繰越		
0		数量(本)	容量(ml)	
1	清酒	=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$N\$5:\$N\$1004)		=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$T\$5:\$T\$1004)
2	合成清酒	=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B8,商品名!\$N\$5:\$N\$1004)		=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B8,商品名!\$T\$5:\$T\$1004)
3	連続式蒸留焼酎	=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B9,商品名!\$N\$5:\$N\$1004)		=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B9,商品名!\$T\$5:\$T\$1004)

	E	F
	仕入	
	数量(本)	容量(ml)
	=SUMIF(入力表!\$N\$5:\$N\$1004,B7,入力表!\$I\$5:\$I\$1004)	=SUMIF(入力表!\$N\$5:\$N\$1004,B7,入力表!\$J\$5:\$J\$1004)
	=SUMIF(入力表!\$N\$5:\$N\$1004,B8,入力表!\$I\$5:\$I\$1004)	=SUMIF(入力表!\$N\$5:\$N\$1004,B8,入力表!\$J\$5:\$J\$1004)
	=SUMIF(入力表!\$N\$5:\$N\$1004,B9,入力表!\$I\$5:\$I\$1004)	=SUMIF(入力表!\$N\$5:\$N\$1004,B9,入力表!\$J\$5:\$J\$1004)

G		H	
販売			
数量(本)		容量(ml)	
=C7+E7-I7-K7		=D7+F7-J7-L7	
=C8+E8-I8-K8		=D8+F8-J8-L8	
=C9+E9-I9-K9		=D9+F9-J9-L9	

販売数量、容量は
計算式で算出します。

期首在庫+仕入
- 期末在庫- 欠減

I		J	
棚卸			
数量(本)		容量(ml)	
=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$P\$5:\$P\$1004)		=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$W\$5:\$W\$1004)	
=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B8,商品名!\$P\$5:\$P\$1004)		=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B8,商品名!\$W\$5:\$W\$1004)	
=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B9,商品名!\$P\$5:\$P\$1004)		=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B9,商品名!\$W\$5:\$W\$1004)	

K		L	
欠減			
数量(本)		容量(ml)	

NO 1,2,3,の3行分の式だけで
すが、10行目から22行目まで同様の
式が並びます。

23行目は合計の式。(7行目から22行目までの合計)

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
	合	=SUM(=SUM(=SUM(=SUM(=SUM(=SUM(=SUM	=SUM(=SUM(=SUM(
	計	C7:C2	D7:D2	E7:E2	F7:F2	G7:G2	H7:H2	(I7:I2	J7:J2	K7:K2	L7:L2
		2)	2)	2)	2)	2)	2)	2)	2)	2)	2)

=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$N\$5:\$N\$1004)

照合範囲(品名) 検索(品名) 合計範囲(期首在庫)

指定した条件を満たす範囲内の値を合計する。

SUMIF(範囲, 検索条件, [合計範囲])

範囲 必ず指定。検索条件 必ず指定。

合計範囲 省略可能。省略すると、“範囲”が“合計範囲”となる。

シート 商品名

	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X
1														
2				在庫本数表										
3														
4	売価格	酒類		繰越本数	棚卸本数		累計	抽出	容量	累計	抽出	容量		
5		清酒					0	0	0	0	0	0		
6							0	0	0	0	0	0		
7							0	0	0	0	0	0		
8							0	0	0	0	0	0		
9							0	0	0	0	0	0		
10							0	0	0	0	0	0		
11							0	0	0	0	0	0		
12							0	0	0	0	0	0		
13							0	0	0	0	0	0		

期首在庫 本数

=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$N\$5:\$N\$1004)

期首在庫 容量

=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$T\$5:\$T\$1004)

期末在庫 本数

=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$P\$5:\$P\$1004)

期末在庫 容量

=SUMIF(商品名!\$L\$5:\$L\$1004,B7,商品名!\$W\$5:\$W\$1004)

シート 入力表

	H	I	J	K	L	M	N	O
1								
2								
3								
4	仕入単価	数量	容量	仕入先	住所	店名	酒類	販売単価
5								
6								
7								
8								
9								
10								

仕入 本数

=SUMIF(入力表!\$N\$5:\$N\$1004,B7,入力表!\$I\$5:\$I\$1004)

仕入 容量

=SUMIF(入力表!\$N\$5:\$N\$1004,B7,入力表!\$J\$5:\$J\$1004)

シート 商品名

その1 最初に、「商品名」に商品の種類を登録します。

コードは大分類(2桁)、中分類(2桁)、小分類(2桁)になります。

	大分類	中分類	小分類
1	清酒	1~99 容量別区分	1~18 銘柄別区分
2	合成清酒	1~99	1~18
3	連続式蒸留焼酎	1~99	1~18
4	単式蒸留焼酎	1~99	1~18
5	みりん	1~99	1~18
6	ビール	1~99	1~18
7	果実酒	1~99	1~18
8	甘味果実酒	1~99	1~18
9	ウィスキー	1~99	1~18
10	ブランデー	1~99	1~18
11	発泡酒	1~99	1~18
12	その他の醸造酒	1~99	1~18
13	スピリッツ	1~99	1~18
14	リキュール	1~99	1~18
15	雑酒	1~99	1~18
16	粉末酒	1~99	1~18

大分類での品数は $99 * 18 = 1782$ 、小分類では $1782 * 16 = 38912$ 銘柄が、商品の種類となりますが、このファイルでは1000種類までとし、これをを超える場合は利用できません。

中分類(区分A)の商品単位で明細表を作成します。中分類(区分A)は同じ容量であることが必要です。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1																
2	商品名並替											商品名印刷	在庫転記	戻る	在庫本数表	
3	データの削除や移動はしてはいけません。不要なデータは消去後、マスタ並替をします。															
4	大	中	小	コード	区分A	区分B	品名	容量	仕入価格	販売価格	酒類	繰越本数	棚卸本数			
5	1	1	1	10101	101	1					清酒					
6				0	0	2										
7				0	0	2										
8				0	0	2										
9				0	0	2										
10				0	0	2										
11				0	0	2										

	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF	AG	AH
1	期首在庫				期末在庫				中分類在庫調査表				中分類仕入売上					
2																		
3																		
4	累計	抽出	容量	累計	抽出	容量	区分B	本数	容量	本数	容量	仕入	本数	容量	売上	本数	容量	
5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
6	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
7	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
8	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
9	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
10	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0		0	0	0	0	0	

品名	容量	仕入価格	販売価格	酒類
				=IF(B5="", "", VLOOKUP(B5, 報告書!\$A\$7:\$B\$22, 2, FALSE))
				=IF(B6="", "", VLOOKUP(B6, 報告書!\$A\$7:\$B\$22, 2, FALSE))
				=IF(B7="", "", VLOOKUP(B7, 報告書!\$A\$7:\$B\$22, 2, FALSE))

商品コード台帳

品名 容量 仕入価格 販売価格 酒類 (16種類の品名を表示します)。

=IF(B5="", "", VLOOKUP(B5, 報告書!\$A\$7:\$B\$22, 2, FALSE))

=IF(B6="", "", VLOOKUP(B6, 報告書!\$A\$7:\$B\$22, 2, FALSE))

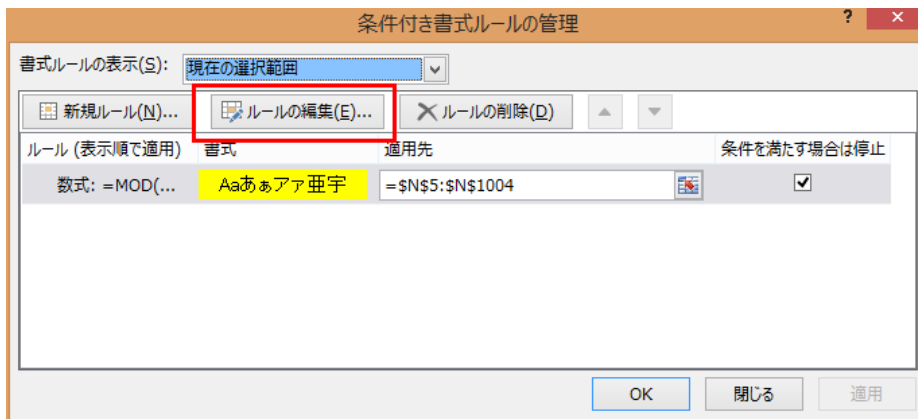
=IF(B7="", "", VLOOKUP(B7, 報告書!\$A\$7:\$B\$22, 2, FALSE))

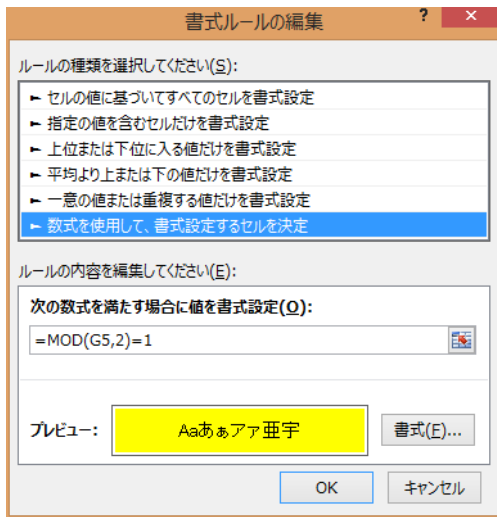
検索範囲の照合列になります。

	N	O	P	Q
1				
2	在庫本数表			
3				
4	繰越本数		棚卸本数	
5				
6				
7				
8				
9				
10				
	期首		期末	

N列 P列 は在庫の数値を入力します。
この列には 条件付書式を設定しています

ホーム





=MOD(G5,2)=1 ならば **黄色** にする。

G列の区分Bが奇数ならば、**黄色**。

偶数ならば、変化なし。

区分B が変わるたびに、

在庫の本数の累計・抽出をします。

	R	S	T	U	V	W
1						
2		期首在庫			期末在庫	
3						
4		累計	抽出	容量	累計	抽出
5		=IF(\$G4=\$G5,R4+N5,N5)	=IF(\$G5=\$G6,0,R5)	=S5*15	=IF(\$G4=\$G5,U4+P5,P5)	=IF(\$G5=\$G6,0,U5)
6		=IF(\$G5=\$G6,R5+N6,N6)	=IF(\$G6=\$G7,0,R6)	=S6*16	=IF(\$G5=\$G6,U5+P6,P6)	=IF(\$G6=\$G7,0,U6)
7		=IF(\$G6=\$G7,R6+N7,N7)	=IF(\$G7=\$G8,0,R7)	=S7*17	=IF(\$G6=\$G7,U6+P7,P7)	=IF(\$G7=\$G8,0,U7)
8		=IF(\$G7=\$G8,R7+N8,N8)	=IF(\$G8=\$G9,0,R8)	=S8*18	=IF(\$G7=\$G8,U7+P8,P8)	=IF(\$G8=\$G9,0,U8)

期首在庫

累計	抽出	容量
=IF(\$G4=\$G5,R4+N5,N5)	=IF(\$G5=\$G6,0,R5)	=S5*15
=IF(\$G5=\$G6,R5+N6,N6)	=IF(\$G6=\$G7,0,R6)	=S6*16
=IF(\$G6=\$G7,R6+N7,N7)	=IF(\$G7=\$G8,0,R7)	=S7*17
=IF(\$G7=\$G8,R7+N8,N8)	=IF(\$G8=\$G9,0,R8)	=S8*18

区分Bごとの累計 区分Bの最後の累計分 本数 * 容量

期末在庫

累計	抽出	容量
=IF(\$G4=\$G5,U4+P5,P5)	=IF(\$G5=\$G6,0,U5)	=V5*15
=IF(\$G5=\$G6,U5+P6,P6)	=IF(\$G6=\$G7,0,U6)	=V6*16
=IF(\$G6=\$G7,U6+P7,P7)	=IF(\$G7=\$G8,0,U7)	=V7*17
=IF(\$G7=\$G8,U7+P8,P8)	=IF(\$G8=\$G9,0,U8)	=V8*18

区分Bは容量単位。同一種類が続く場合には累計を取り、区分Bが変わると新規累計になります。変わる前の累計がその区分Bの在庫本数になります。

	X	Y	Z	AA
1				
2		中分類在庫調査表		
3		期首在庫		
4		区分B	本数	容量
5		1	=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)	=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
6		2	=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)	=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
7		3	=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)	=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
8		4	=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)	=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
9		5	=VLOOKUP(Y9,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)	=VLOOKUP(Y9,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
10		6	=VLOOKUP(Y10,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)	=VLOOKUP(Y10,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
11		7	=VLOOKUP(Y11,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)	=VLOOKUP(Y11,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
12		8	=VLOOKUP(Y12,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)	=VLOOKUP(Y12,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)

	AB	AC
1		
2		
3	期末在庫	
4	本数	容量
5	=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)	=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
6	=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)	=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
7	=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)	=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
8	=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)	=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
9	=VLOOKUP(Y9,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)	=VLOOKUP(Y9,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
10	=VLOOKUP(Y10,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)	=VLOOKUP(Y10,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
11	=VLOOKUP(Y11,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)	=VLOOKUP(Y11,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
12	=VLOOKUP(Y12,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)	=VLOOKUP(Y12,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)

期首在庫

本数

=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)
 =VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)
 =VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)
 =VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,12,TRUE)

容量

=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
 =VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
 =VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)
 =VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,14,TRUE)

G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
区分B	品名	容量	仕入価格	販売価格	酒類	繰越本数	棚卸本数	累計	抽出	容量	累計	抽出	容量			

期首 期末

VLOOKUP 関数

セル範囲の最初の列を検索し、その範囲の同じ行にある任意のセルから値を返す。

書式

VLOOKUP(検索値, 範囲, 列番号, [検索の型])

検索値 必ず指定。

範囲 必ず指定。範囲の左端の列の値から、検索値が検索される。

列番号 必ず指定。

目的のデータが入力されている列を、範囲内の左端から数えた列数で指定。

検索の型 省略可能。

VLOOKUP を使用して検索値と完全に一致する値だけを検索するか、その近似値を含めて検索するかを指定する論理値です。

検索の型に TRUE を指定するか省略すると、検索値と完全に一致する値、またはその近似値が返されます。完全に一致する値が見つからない場合は、検索値未満の最大値が使用されます。

重要 検索の型に TRUE を指定するか省略する場合は、範囲の左端の列にある値を昇順に並べ替えておく必要があります、これを行わないと、正しい値が返されない場合があります。

検索の型に FALSE を指定する場合は、範囲の左端の列にある値を並べ替える必要はありません。検索の型に FALSE を指定すると、検索値と完全に一致する値だけが検索されます。完全に一致する値が範囲の左端の列に複数ある場合は、最初に見つかった値が使用されます。完全に一致する値が見つからない場合は、エラー値 #N/A が返されます。

解説

##範囲の左端の列にある文字列を検索するときは、範囲の左端の列にあるデータの先頭または末尾にスペースがなく、左右とも同じ向きの引用符（' または "）や左右で違う向きの引用符（' または "）が矛盾なく使用されており、さらに印刷されない文字が含まれていないことを確認してください。これらの状況に当てはまる場合は、誤った値や予期しない値が返される場合があります。

期末在庫

本数

=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)
=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)
=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)
=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,15,TRUE)

容量

=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)
=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$X\$1004,17,TRUE)

G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
区分B	品名	容量	仕入価格	販売価格	酒類	繰越本数	棚卸本数	累計	抽出	容量	累計	抽出	容量			

期首

期末

	AE	AF
1		
2	中分類仕入売上	
3	仕入	
4	本数	容量
5	=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y5,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)	=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE5
6	=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y6,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)	=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE6
7	=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y7,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)	=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE7
8	=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y8,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)	=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE8
9	=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y9,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)	=VLOOKUP(Y9,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE9
10	=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y10,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)	=VLOOKUP(Y10,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE10
11	=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y11,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)	=VLOOKUP(Y11,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE11
12	=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y12,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)	=VLOOKUP(Y12,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE12

仕入は入力表からデータを集計します。

本数

=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y5,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)

=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y6,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)

=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y7,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)

=SUMIF(入力表!\$E\$5:\$E\$2004,商品名!Y8,入力表!\$I\$5:\$I\$2004)

容量

=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE5

=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE6

=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE7

=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AE8

	AG	AH
1		
2		
3	売上	
4	本数	容量
5	=Z5+AE5-AB5	=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG5
6	=Z6+AE6-AB6	=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG6
7	=Z7+AE7-AB7	=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG7
8	=Z8+AE8-AB8	=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG8
9	=Z9+AE9-AB9	=VLOOKUP(Y9,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG9
10	=Z10+AE10-AB10	=VLOOKUP(Y10,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG10
11	=Z11+AE11-AB11	=VLOOKUP(Y11,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG11
12	=Z12+AE12-AB12	=VLOOKUP(Y12,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG12

売上は期首在庫+仕入-期末在庫

本数

=Z5+AE5-AB5

=Z6+AE6-AB6

=Z7+AE7-AB7

=Z8+AE8-AB8

容量

=VLOOKUP(Y5,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG5

=VLOOKUP(Y6,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG6

=VLOOKUP(Y7,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG7

=VLOOKUP(Y8,商品名!\$G\$5:\$I\$1004,3,TRUE)*AG8

シート 明細一覧表

シート 商品名 のR列からAH列の表は、シート 明細一覧表 を作成するためのものです。

報告書は 16 分類の区分で、この区分の集計だけでは大まかにすぎるので、区分Bの集計を明細一覧表にまとめるます。この表で、売上げがマイナスになっていないかをチェックします。マイナスになるのは在庫が多すぎる場合で、仕入が漏れているので、再確認を要します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
1											
2		中分類(区分B)による整理一覧表					一覧表印刷	年 月 期	戻る		
3		期首在庫		仕入		売上		期末在庫			
4		区分B	本数	容量	本数	容量	本数	容量	本数	容量	
5		1									
6		2									
7		3									
8		4									
9		5									
10		6									
11		7									

期首在庫	
区分B	容量
1	=IF(OR(商品名!Z5=0,商品名!Z5=""),"",商品名!Z5)
2	=IF(OR(商品名!Z6=0,商品名!Z6=""),"",商品名!Z6)
3	=IF(OR(商品名!Z7=0,商品名!Z7=""),"",商品名!Z7)
4	=IF(OR(商品名!Z8=0,商品名!Z8=""),"",商品名!Z8)

仕入	
本数	容量
=IF(OR(商品名!AE5=0,商品名!AE5=""),"",商品名!AE5)	=IF(OR(商品名!AF5=0,商品名!AF5=""),"",商品名!AF5)
=IF(OR(商品名!AE6=0,商品名!AE6=""),"",商品名!AE6)	=IF(OR(商品名!AF6=0,商品名!AF6=""),"",商品名!AF6)
=IF(OR(商品名!AE7=0,商品名!AE7=""),"",商品名!AE7)	=IF(OR(商品名!AF7=0,商品名!AF7=""),"",商品名!AF7)
=IF(OR(商品名!AE8=0,商品名!AE8=""),"",商品名!AE8)	=IF(OR(商品名!AF8=0,商品名!AF8=""),"",商品名!AF8)

売上	
本数	容量
=IF(OR(商品名!AG5=0,商品名!AG5=""),"",商品名!AG5)	=IF(OR(商品名!AH5=0,商品名!AH5=""),"",商品名!AH5)
=IF(OR(商品名!AG6=0,商品名!AG6=""),"",商品名!AG6)	=IF(OR(商品名!AH6=0,商品名!AH6=""),"",商品名!AH6)
=IF(OR(商品名!AG7=0,商品名!AG7=""),"",商品名!AG7)	=IF(OR(商品名!AH7=0,商品名!AH7=""),"",商品名!AH7)
=IF(OR(商品名!AG8=0,商品名!AG8=""),"",商品名!AG8)	=IF(OR(商品名!AH8=0,商品名!AH8=""),"",商品名!AH8)

期末在庫	
本数	容量
=IF(OR(商品名!AB5=0,商品名!AB5=""),"",商品名!AB5)	=IF(OR(商品名!AC5=0,商品名!AC5=""),"",商品名!AC5)
=IF(OR(商品名!AB6=0,商品名!AB6=""),"",商品名!AB6)	=IF(OR(商品名!AC6=0,商品名!AC6=""),"",商品名!AC6)
=IF(OR(商品名!AB7=0,商品名!AB7=""),"",商品名!AB7)	=IF(OR(商品名!AC7=0,商品名!AC7=""),"",商品名!AC7)
=IF(OR(商品名!AB8=0,商品名!AB8=""),"",商品名!AB8)	=IF(OR(商品名!AC8=0,商品名!AC8=""),"",商品名!AC8)
=IF(OR(商品名!AB9=0,商品名!AB9=""),"",商品名!AB9)	=IF(OR(商品名!AC9=0,商品名!AC9=""),"",商品名!AC9)

条件付書式

数式を使用して、書式設定をするセルを決定 $=\text{MOD}(\text{ROW}(),2)=1$

奇数行のセルの背景を にする

シート 棚卸表

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1														
2		商品コード台帳								戻る	このシート	一覧表印刷	在庫本数表	
3	データの削除や移動はしてはいけません。不要なデータは消去後、マスタ並替をします。													
4		コード	区分A	区分B	品名	容量	仕入単価	販売価格	酒類	繰越本数	棚卸本数			
5	1	10,101	101	1					清酒					
6	2	10,102	101	1					清酒					
7	3	10,203	102	2					清酒					
8	4	10,104	101	3					清酒					
9	5	10,305	103	4					清酒					
10	6	10,206	102	5					清酒					
11	7	10,107	101	6					清酒					
12	8	10,108	101	6					清酒					

期首に印刷します。期末在庫の確認を記入します。新規の商品のコードの作成などにも活用します。このシートも条件付書式で区分Bが変化するとき背景が変化します。

条件付書式

数式を使用して、書式設定をするセルを決定 $=\text{MOD}(D5,2)=1$

D列が奇数の行のセルの背景を にする

販売価格の背景が変わらないのは、V2の作成で一行増やしたのに、この設定を忘れたからです。途中の仕様変更はなかなか完全を期するのは難しいです。

	コード	区分A	区分B
1	=IF(商品名!E5="","",商品名!E5)	=IF(商品名!F5="","",商品名!F5)	=IF(商品名!G5="","",商品名!G5)
2	=IF(商品名!E6="","",商品名!E6)	=IF(商品名!F6="","",商品名!F6)	=IF(商品名!G6="","",商品名!G6)
3	=IF(商品名!E7="","",商品名!E7)	=IF(商品名!F7="","",商品名!F7)	=IF(商品名!G7="","",商品名!G7)
4	=IF(商品名!E8="","",商品名!E8)	=IF(商品名!F8="","",商品名!F8)	=IF(商品名!G8="","",商品名!G8)

品名	容量	仕入単価
=IF(商品名!H5="","",商品名!H5)	=IF(商品名!I5="","",商品名!I5)	=IF(商品名!J5="","",商品名!J5)
=IF(商品名!H6="","",商品名!H6)	=IF(商品名!I6="","",商品名!I6)	=IF(商品名!J6="","",商品名!J6)
=IF(商品名!H7="","",商品名!H7)	=IF(商品名!I7="","",商品名!I7)	=IF(商品名!J7="","",商品名!J7)
=IF(商品名!H8="","",商品名!H8)	=IF(商品名!I8="","",商品名!I8)	=IF(商品名!J8="","",商品名!J8)

販売価格	酒類
=IF(商品名!K6="","",商品名!K6)	=IF(商品名!L5="","",商品名!L5)
=IF(商品名!K7="","",商品名!K7)	=IF(商品名!L6="","",商品名!L6)
=IF(商品名!K8="","",商品名!K8)	=IF(商品名!L7="","",商品名!L7)
=IF(商品名!K9="","",商品名!K9)	=IF(商品名!L8="","",商品名!L8)

繰越本数	棚卸本数
=IF(商品名!N5="","",商品名!N5)	=IF(商品名!P5="","",商品名!P5)
=IF(商品名!N6="","",商品名!N6)	=IF(商品名!P6="","",商品名!P6)
=IF(商品名!N7="","",商品名!N7)	=IF(商品名!P7="","",商品名!P7)
=IF(商品名!N8="","",商品名!N8)	=IF(商品名!P8="","",商品名!P8)

セルH列(販売価格)の式は一行ずつ間違っています。セルH5の式
 $=\text{IF}(\text{商品名!K6}="","", \text{商品名!K6})$
 セルH6に入るべきものです。下方向に一行ずらすと直ります。V3の登場です。

シート 入力表

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1															
2		データ入力			データクリア			データ並替				ON	OFF	戻る	
3															
4		月	日	コード1	区分B	品名	容量	仕入単価	数量	容量	仕入先	住所	店名	酒類	販売単価
5	1														
6	2														
7	3														
8	4														
9	5														
10	6														
11	7														
12	8														

黄色のセルに入力します。仕入単価は基本は「商品名」からですが、変更することも可能です。セルH5に式は保護をして、書換えられませんが6行目以下には入力できます。期間中に変動があった場合など利用します。恒常的に変動した時には、「商品名」の仕入単価を変更します。データクリアをする時点で、セルH5の式を行数分コピーして元に戻しています。

	月	日	コード1	区分B	品名
1				=IF(D5="","",VLOOKUP(D5,商品名!\$E\$5:\$G\$1004.3,FALSE))	=IF(D5="","",VLOOKUP(D5,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.4,FALSE))
2				=IF(D6="","",VLOOKUP(D6,商品名!\$E\$5:\$G\$1004.3,FALSE))	=IF(D6="","",VLOOKUP(D6,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.4,FALSE))
3				=IF(D7="","",VLOOKUP(D7,商品名!\$E\$5:\$G\$1004.3,FALSE))	=IF(D7="","",VLOOKUP(D7,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.4,FALSE))
4				=IF(D8="","",VLOOKUP(D8,商品名!\$E\$5:\$G\$1004.3,FALSE))	=IF(D8="","",VLOOKUP(D8,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.4,FALSE))
5				=IF(D9="","",VLOOKUP(D9,商品名!\$E\$5:\$G\$1004.3,FALSE))	=IF(D9="","",VLOOKUP(D9,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.4,FALSE))
6				=IF(D10="","",VLOOKUP(D10,商品名!\$E\$5:\$G\$1004.3,FALSE))	=IF(D10="","",VLOOKUP(D10,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.4,FALSE))

容量	仕入単価
=IF(D5="","",VLOOKUP(D5,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.5,FALSE))	=IF(D5="","",VLOOKUP(D5,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.6,FALSE))
=IF(D6="","",VLOOKUP(D6,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.5,FALSE))	=IF(D6="","",VLOOKUP(D6,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.6,FALSE))
=IF(D7="","",VLOOKUP(D7,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.5,FALSE))	=IF(D7="","",VLOOKUP(D7,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.6,FALSE))
=IF(D8="","",VLOOKUP(D8,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.5,FALSE))	=IF(D8="","",VLOOKUP(D8,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.6,FALSE))
=IF(D9="","",VLOOKUP(D9,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.5,FALSE))	=IF(D9="","",VLOOKUP(D9,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.6,FALSE))
=IF(D10="","",VLOOKUP(D10,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.5,FALSE))	=IF(D10="","",VLOOKUP(D10,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.6,FALSE))

数量	容量	仕入先	住所	店名
=IF(I5="","",G5*I5)			=IF(K5="","",VLOOKUP(K5,店名!\$B\$5:\$D\$204.3,FALSE))	=IF(K5="","",VLOOKUP(K5,店名!\$B\$5:\$D\$204.2,FALSE))
=IF(I6="","",G6*I6)			=IF(K6="","",VLOOKUP(K6,店名!\$B\$5:\$D\$204.3,FALSE))	=IF(K6="","",VLOOKUP(K6,店名!\$B\$5:\$D\$204.2,FALSE))
=IF(I7="","",G7*I7)			=IF(K7="","",VLOOKUP(K7,店名!\$B\$5:\$D\$204.3,FALSE))	=IF(K7="","",VLOOKUP(K7,店名!\$B\$5:\$D\$204.2,FALSE))
=IF(I8="","",G8*I8)			=IF(K8="","",VLOOKUP(K8,店名!\$B\$5:\$D\$204.3,FALSE))	=IF(K8="","",VLOOKUP(K8,店名!\$B\$5:\$D\$204.2,FALSE))
=IF(I9="","",G9*I9)			=IF(K9="","",VLOOKUP(K9,店名!\$B\$5:\$D\$204.3,FALSE))	=IF(K9="","",VLOOKUP(K9,店名!\$B\$5:\$D\$204.2,FALSE))
=IF(I10="","",G10*I10)			=IF(K10="","",VLOOKUP(K10,店名!\$B\$5:\$D\$204.3,FALSE))	=IF(K10="","",VLOOKUP(K10,店名!\$B\$5:\$D\$204.2,FALSE))

酒類	販売単価
=IF(D5="","",VLOOKUP(D5,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.8,FALSE))	=IF(D5="","",VLOOKUP(D5,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.7,FALSE))
=IF(D6="","",VLOOKUP(D6,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.8,FALSE))	=IF(D6="","",VLOOKUP(D6,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.7,FALSE))
=IF(D7="","",VLOOKUP(D7,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.8,FALSE))	=IF(D7="","",VLOOKUP(D7,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.7,FALSE))
=IF(D8="","",VLOOKUP(D8,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.8,FALSE))	=IF(D8="","",VLOOKUP(D8,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.7,FALSE))
=IF(D9="","",VLOOKUP(D9,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.8,FALSE))	=IF(D9="","",VLOOKUP(D9,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.7,FALSE))
=IF(D10="","",VLOOKUP(D10,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.8,FALSE))	=IF(D10="","",VLOOKUP(D10,商品名!\$E\$5:\$L\$1004.7,FALSE))

このシートにはデータ入力を容易にするため、セル移動のマクロを設置しています。

シートに設定しているマクロ。

- ・カーソルが入力しやすいように動くようになった。
- ・5列目だと同じ行の8列目に移動
- ・10列目だと同じ行の11列目に移動
- ・12列目だとひとつ下の行の3列目に移動
- ・

```
Private Sub Worksheet_SelectionChange(ByVal Target As Excel.Range)
```

```
Application.MoveAfterReturnDirection = xlToRight
```

```
Dim s As Integer
```

```
If Target.Column = 5 Then
```

```
    s = Target.Row
```

```
    Cells(s, 8).Select
```

```
    ElseIf Target.Column = 10 Then
```

```
    s = Target.Row
```

```
    Cells(s, 11).Select
```

```
    ElseIf Target.Column = 12 Then
```

```
    s = Target.Row
```

```
    Cells(s + 1, 3).Select
```

```
End If
```

```
End Sub
```

Enterキーを押すと、カーソル移動は右に設定

コード1を入力して、Enterキーを押すと、カーソルは区分B(5列目)になるので、仕入単価(8列目)に移動、数量(9列目)でEnterキーを押すと、カーソルは容量(10列目)になるので仕入先(11列目)に移動、ここを入力してEnterキーを押すと、カーソルは住所(12列目)になるので、一行下の日(3列目)に移動する。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1																
2	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
4	月	日	コード1	区分B	品名	容量	仕入単価	数量	容量	仕入先	住所	店名	酒類	販売単価		
5	1															
6	2															
7	3															
8	4															

単に Sub から始めると、Public Sub と判断され

「すべてのモジュールから呼び出せるプロシージャ」扱いになります。

Private Sub とすると、

「同じモジュールの中からは呼び出せないプロシージャ」となります。

公開範囲が変わります。

Private Sub の場合、同じコードリストからだけの呼び出しが出来ます。

Module1にある test がたんなる test だと、call Module1.test() ということになりますが、Private がつくと、module1.test としても、エラーになります。

フォームのコードを作成する場合、イベントに対して、一つの処理があればよいので、Private が使われるようになっていきます。

でも、生成した Private を削除しても、正しく処理されるので、みかけは同じことになりません。

Worksheet_SelectionChange とは

ワークシート上で選択範囲が変更されたときに呼び出される特別なメソッドです
ワークシート上で何かが起こったら何かをするような目的に使われます

普通のマクロとの違いはここに 있습니다。マクロの実行を人間がわざわざ指示しなくても動く ということです

つまり、Worksheet_SelectionChange は SelectionChange イベントを拾って 起動されるマクロ(メソッド)なのです

実行しないようにするには、イベントが発生しないように Application.EnableEvents を False にします。

ON

```
Sub はじめる()  
    Application.EnableEvents = True  
End Sub
```

OFF

```
Sub とめる()  
    Application.EnableEvents = False  
End Sub
```

カーソルをどこにでも置くことができます

データ入力

```
Sub 最後へ()  
'データを入力してある一番下のところへ移動  
    If Range("C5").Value = "" Then  
        MsgBox "データがありません。"  
        Exit Sub  
    End If  
    Range("C4").Select  
    Selection.End(xlDown).Select  
End Sub
```

カーソルをセルC4(日)に置いて、Ctrlキーと↓キーを同時に押すと、データが入力されている最後のセルに移動します

データクリア

Sub クリア()

'入力データのクリア

```
If MsgBox(prompt:="もうもとはもどれませんよ!", _  
Title:="全てのデータ消去, 再度確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
```

```
Range("B5:D1004").Select
```

```
Selection.ClearContents
```

```
Range("I5:I1004").Select
```

```
Selection.ClearContents
```

```
Range("K5:K1004").Select
```

```
Selection.ClearContents
```

単価引用

End If

```
Range("A1").Select
```

End Sub

データクリアの中で実行されるマクロ

Sub 単価引用()

'単価を手入力したセルを元に戻すため

```
ActiveSheet.Unprotect
```

```
Range("H5").Select 'このセルに保護解除してありません。
```

```
Selection.AutoFill Destination:=Range("H5:H1004"), Type:=xlFillDefault
```

オートフィルコピーをします

```
Range("H5:H1004").Select
```

```
Range("H6:H1004").Select '保護を解除します。手入力できるようにするため。
```

```
Selection.Locked = False
```

```
Selection.FormulaHidden = False
```

```
ActiveSheet.Protect
```

```
Range("A1").Select
```

End Sub

入力漏れがあった場合には、最終行に入力してから月日順に並べ替えます。

データ並替

Sub 並替入力表()

'月日順での並べ替え 範囲は"B6:N1004"

黄色のセルを空白にする

```
Range("B5:D1004").Value=""
```

```
Range("I5:I1004").Value=""
```

```
Range("K5:K1004").Value=""
```

こちらが 処理時間が早いです

```

ActiveSheet.Unprotect
Range("B6:N1004").Select
    Selection.Sort Key1:=Range("B6"), Order1:=xlAscending, Key2:=Range("C6") _
    , Order2:=xlAscending, Header:=xlGuess, OrderCustom:=1, MatchCase:= _
    False, Orientation:=xlTopToBottom, SortMethod:=xlPinYin, DataOption1:= _
    xlSortNormal, DataOption2:=xlSortNormal
ActiveSheet.Protect
Range("A1").Select
End Sub

```

シート 仕入明細

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1											店名コード
2			仕入確認一覧表			戻る	店名		一覧表印刷		1
3											
4		月	日	コード1	区分B	品名	容量	仕入単価	数量	販売単価	酒類
5	1										
6	2										
7	3										
8	4										
9	5										
10	6										
11	7										
12	8										

このシートには特別の式はありません。入力表からオートフィルタでデータを持ってきます。セルK2に商店コードを入力して、一覧表印刷 ボタンを押します。

'これが仕入明細一覧表の作成

Sub 明細仕入()

'データが入力されているかチェックします。

Application.ScreenUpdating = False

Dim 判定 As Integer

判定 = Sheets("入力表").Cells(5, 2).Value

If 判定 = 0 Then

MsgBox "データが入力されていませんよ。"

Application.ScreenUpdating = True

Exit Sub

End If

ActiveSheet.Unprotect

'最初に指定された仕入先のデータを一覧表に転記します。

Dim 商店 As Integer

Dim 確認 As Integer

画面の動きを表示しない

セルB5に入力数値があれば
作業継続、無ければ作業終了。

画面の動きを表示する

シート保護解除(仕入明細)

商店 = Sheets("仕入明細").Cells(2, 11).Value '仕入先のコード番号 K2
 確認 = Sheets("MENU").Cells(4, 4).Value '印刷方式

Sheets("入力表").Select
 ActiveSheet.Unprotect
 Application.EnableEvents = False 'カーソル移動分解除

False にしておかないと、マクロでの動きが指定できない

Range("B5").Select 'オートフィルタをかけます
 Selection.AutoFilter
 Selection.AutoFilter Field:=11, Criteria1:=商店 '指定した商店を選択します

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	月	日	コード1	区分B	品名	容量	仕入単価	数量	容量	仕入先	住所	店名	酒類	販売単価

Range("B5:O1100 ").Select '選択された範囲をコピーします"
 Selection.Copy
 Sheets("仕入明細").Select '作業表に値のみ貼り付けをします
 Range("B5").Select
 Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _
 :=False, Transpose:=False

Range("A1").Select
 Application.CutCopyMode = False
 Sheets("入力表").Select 'オートフィルタをはずします

Selection.AutoFilter
 ActiveSheet.Protect
 Range("A1").Select

入力表を元の状態に戻しておく

Application.EnableEvents = True 'カーソル移動分セット

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1											店名コード
2				仕入確認一覧表			店名				1
3											
4		月	日	コード1	区分B	品名	容量	仕入単価	数量	販売単価	酒類
5	1										
6	2										

'次に転記されたデータを一覧表で印刷します。

Sheets("仕入明細").Select
 Range("A1").Select
 Cells(2, 8).Value = Cells(5, 13).Value '商店名を入力します セルH 2
 Range("O5:O1100 ").Select '選択された範囲をコピーします"
 Selection.Copy

'値のみ貼り付けをします

```
Range("J5").Select  
Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _  
:=False, Transpose:=False  
Range("A1").Select  
Application.CutCopyMode = False
```

販売単価をJ列にコピーします

```
Range("N5:N1100 ").Select  
Selection.Copy
```

'選択された範囲をコピーします"

'値のみ貼り付けをします

```
Range("K5").Select  
Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _  
:=False, Transpose:=False  
Range("A1").Select  
Application.CutCopyMode = False  
Range("L5:O1100").Value = ""  
Range("D4").Select  
Selection.AutoFilter  
Selection.AutoFilter Field:=4, Criteria1:="<>"  
Range("F8").Select
```

酒類をK列にコピーします

L列からO列を空白にします

オートフィルタ
D列が空白でないものを選択しま
す

```
If 確認 = 2 Then  
ActiveSheet.PrintPreview  
End If  
If 確認 = 1 Then  
ActiveWindow.SelectedSheets.PrintOut Copies:=1  
End If
```

'ためすときはプレビューで

```
Range("D4").Select  
Selection.AutoFilter
```

オートフィルタを解除します

```
Cells(2, 8).Value = ""  
Range("B5:K1100").Select  
Selection.ClearContents  
Range("A1").Select  
ActiveSheet.Protect  
Application.ScreenUpdating = True
```

商店名を空白にします

'念のために広範囲をクリア

シートの保護設定
画面の動きを表示する

End Sub

シート 印刷表

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R	S	T
		酒類別	0					容量別	0 ml				NO	0-1	Q			
1																		
2																		
3								仕入先							商品区分		戻る	1
4	受け入れ又は 販売年月日	数量	銘柄	単価	価格	価格	住所	氏名	数量	単価	価格	残高	欠減	摘要				
5		本		円	円	円			本	円	円	本	ml					
6	繰越			ml														
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27		本		ml					本	ml		本	ml					
28																		
29																		

このシートは手書きのシートを模したものです。

L列M列、O列P列には在庫数を記入するようにしてあるのが、手書きとは違います。

作業表にあるデータをセルT3の数値を元に、20行単位に表示します。

	A	B	C	D	E	F	G
1	酒類報告書作成						
2							
3							
4		明細連続印刷		1		直接印刷は1、プレビュー印刷は2。	
5							
6			中分類の商品数は全部で	1		種類になります。	
7							
8		明細個別印刷		93		個別明細番号を指定。	
9							
10				1		在庫印刷は1、印刷しない場合は2。	
11						酒類報告書を3カ月単位に集計するものです。	

シート MENU の セルD4 で印刷方法を指定します。

セルD8 で 区分B の商品単位で 印刷をします。

セルD10 で 在庫印刷の有無 を指定します。

セルE6 には 区分B(中分類)の商品数 を示しています。

=MAX(商品名!G:G)-1 連続印刷に利用します。

明細書の印刷方法は2種類準備しました。一括印刷をして、確認してみて、間違いがあった時には、修正をして、その部分だけを個別印刷で打ち出します。

マクロの作成としては、

明細個別印刷

が先で、それを連続的にして

明細連続印刷

を作っています。

明細個別印刷

'これが基本部分です。

Sub 明細個別()

'データが入力されているかチェックします。

Application.ScreenUpdating = False

Dim 判定 As Integer

判定 = Sheets("入力表").Cells(5, 2).Value

If 判定 = 0 Then

MsgBox "データが入力されていませんよ。"

Application.ScreenUpdating = True

Exit Sub

End If

入力表にデータが無ければ
作業をしない

'最初に指定された商品のデータを作業表に転記します。

Dim 商品 As Integer

Dim 確認 As Integer

Dim 在庫 As Integer

商品 = Sheets("MENU").Cells(8, 4).Value

'酒類の明細番号

確認 = Sheets("MENU").Cells(4, 4).Value

'印刷方式

在庫 = Sheets("MENU").Cells(10, 4).Value

'在庫印刷の有無

Sheets("商品名").Select

ActiveSheet.Unprotect

Sheets("作業表").Select

ActiveSheet.Unprotect

Sheets("入力表").Select

ActiveSheet.Unprotect

Application.EnableEvents = False 'カーソル移動分解除

Range("B5").Select

'オートフィルタをかけます

Selection.AutoFilter

作業に必要なシートの保護を
解除します

カーソル移動制限解除

月	コード	区分	品名	容量	仕入単	数量	容量	仕入	住所	店名	酒類	販売単
1		B										
2		B										
3		B										

Selection.AutoFilter Field:=5, Criteria1:=商品

'指定した商品を選択します

指定された 区分B を選択します

Range("B5:N1100").Select

'選択された範囲をコピーします

Selection.Copy

Sheets("作業表").Select

'作業表に値のみ貼り付けをします

Range("B5").Select

Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _
:=False, Transpose:=False

Range("A1").Select

Application.CutCopyMode = False

Sheets("入力表").Select

'オートフィルタをはずします

Selection.AutoFilter

ActiveSheet.Protect

入力表を元に戻します

Range("A1").Select

Application.EnableEvents = True 'カーソル移動分セット

シート 作業表

月	日	コード	区分	品名	容量	単価	数量	仕入先	住所	店名	酒類
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											

酒類別	
容量	
期首本数	A
期首容量	B
仕入本数	C
仕入容量	D
売上本数	E=A+C-G
売上容量	F=B+D-H
期末本数	G
期末容量	H
在庫確認	

酒類別
=IF(E5="", "", VLOOKUP(E5, 商品名!\$G\$5:\$L\$1004, 5, TRUE))
容量
=IF(E5="", "", VLOOKUP(E5, 商品名!\$G\$5:\$L\$1004, 3, TRUE))

銘柄	繰越本数	棚卸本数
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		

データ件数
=COUNT(B:B)
台帳枚数
=ROUNDUP(R3/20, 0)

セルE5には区分Bの数値がありません
 ここからこれらの数式に数値が
 導かれてきます

期首本数	=IF(E5="", "", VLOOKUP(\$E\$5, 商品名!\$G\$5:\$W\$1004, 13, TRUE))	A
期首容量	=IF(E5="", "", VLOOKUP(\$E\$5, 商品名!\$G\$5:\$W\$1004, 14, TRUE))	B
仕入本数	=SUM(I5:I1004)	C
仕入容量	=SUM(J5:J1004)	D
売上本数	=IF(E5="", "", Q11+Q13-Q17)	E=A+C-G
売上容量	=IF(E5="", "", Q12+Q14-Q18)	F=B+D-H
期末本数	=IF(E5="", "", VLOOKUP(\$E\$5, 商品名!\$G\$5:\$W\$1004, 16, TRUE))	G
期末容量	=IF(E5="", "", VLOOKUP(\$E\$5, 商品名!\$G\$5:\$W\$1004, 17, TRUE))	H
在庫確認	=IF(E5="", "", IF(Q11+Q17>0, 1, ""))	

次に転記されたデータを所定の形で印刷します。

```

Sheets("作業表").Select
Range("A1").Select
Dim 組 As Integer
Dim 枚 As Integer
枚 = Cells(6, 18).Value
    
```

セルR6に印刷枚数が計算される。
 1枚に20行あります。
 データ件数/20 の切り上げ

' 当期仕入分がなくても在庫がある場合には印刷をする

オートフィルタで転記された
 データが何も無い時

If 枚 = 0 Then

'在庫の確認のため

Cells(5, 5).Value = 商品

'作業表 5行目E列にコード番号

Cells(5, 7).Value = Cells(7, 16).Value

'作業表 5行目G列に容量

Cells(5, 14).Value = Cells(5, 16).Value

'作業表 5行目N列に酒類

上の入力でQ11からQ20まで数値が入ります

セルQ20の式

=IF(E5="", "", IF(Q11+Q17>0, 1, ""))

期首本数+期末本数>0 在庫有

If Cells(20, 17) = 1 Then

'在庫がある場合

Cells(204, 2).Value = 1

'印刷させるため最後の行に数値をセット

枚 = Cells(6, 18).Value

'1個でもあれば印刷します

End If

End If

	A	B	C	D	E	F
1						
2		在庫転記のための一覧表				
3					戻る	
4	NO	区分B	品名	繰越本数	棚卸本数	
5	1			0	0	
6	2			0	0	
7	3			0	0	
8	4			0	0	
9	5			0	0	

在庫の転記作業。

作業表2にはシート 商品名 から 1000 行分 データが入ります

NO	区分B	品名	繰越本数	棚卸本数
1	=IF(商品名!H5="", "", 商品名!G5)	=IF(商品名!H5="", "", 商品名!H5)	=商品名!N5	=商品名!P5
2	=IF(商品名!H6="", "", 商品名!G6)	=IF(商品名!H6="", "", 商品名!H6)	=商品名!N6	=商品名!P6
3	=IF(商品名!H7="", "", 商品名!G7)	=IF(商品名!H7="", "", 商品名!H7)	=商品名!N7	=商品名!P7
4	=IF(商品名!H8="", "", 商品名!G8)	=IF(商品名!H8="", "", 商品名!H8)	=商品名!N8	=商品名!P8

'在庫明細を書き加える

Sheets("作業表 2").Select

ActiveSheet.Unprotect

Range("B4").Select

Selection.AutoFilter

Selection.AutoFilter Field:=2, Criteria1:=商品

Range("C5:E1100").Select

Selection.Copy

Sheets("作業表").Select

'作業表に値のみ貼り付けをします

Range("P24").Select

区分B で フィルタ

多くても 18 個のデータ。

作業表のセルP24から

貼り付けます

```
Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _  
:=False, Transpose:=False
```

```
Range("A1").Select
```

```
Application.CutCopyMode = False
```

```
Sheets("作業表 2").Select 'オートフィルタをはずします
```

```
Selection.AutoFilter
```

作業表 2 を元に戻します

```
Range("A1").Select
```

```
ActiveSheet.Protect
```

```
Sheets("作業表").Select
```

```
If MsgBox(prompt:="準備はいいですか。用紙は "& 枚 & " 枚必要です。準備がよければ" & Chr(13) & "印刷してください。(^.^)", _
```

```
Title:="OK ! (^.^)", Buttons:=vbYesNo) = vbNo Then
```

```
Sheets("作業表").Select
```

```
'キャンセルされた場合もクリアが必要
```

```
Range("B5:N1100,P24:R1100").Select '念のために広範囲をクリア
```

```
Selection.ClearContents
```

```
Range("B5").Select
```

```
Sheets("商品名").Select
```

```
ActiveSheet.Protect
```

```
Sheets("MENU").Select
```

```
Application.ScreenUpdating = True
```

```
Exit Sub
```

後始末

保護設定

MENU画面を選択して

画面の動きを表示させる

作業終了

```
Else
```

```
Sheets("印刷表").Select
```

```
If 在庫 = 2 Then
```

```
ActiveSheet.Unprotect
```

```
Range("L7:Q25").Select
```

```
Selection.NumberFormatLocal = ";;;;" '在庫の部分を非表示にする
```

```
Range("A1").Select
```

```
End If
```

```
For 組 = 1 To 枚 'この部分は枚が 0 であればスキップします
```

```
Range("T3").Select
```

```
ActiveCell.FormulaR1C1 = 組
```

```
Range("A1").Select
```

```
If 確認 = 2 Then
```

実際の表の印刷

印刷表のデータは全て作業表にあります

セルT3でページを指定

```

ActiveSheet.PrintPreview           'ためすときはプレビューで
End If
If 確認 = 1 Then
ActiveWindow.SelectedSheets.PrintOut Copies:=1 'ほんとのときは印刷を
End If
Next

```

印刷が終われば、後始末です

```

If 在庫 = 2 Then
Range("L7:Q25").Select
Selection.NumberFormatLocal = "G/標準"           '在庫の部分を表示にする
Range("A1").Select
ActiveSheet.Protect
End If

Sheets("作業表").Select           '作業終了後はクリアをしておきます。
Range("B5:N1100,P24:R1100").Select '念のために広範囲をクリア
Selection.ClearContents
Range("A1").Select
ActiveSheet.Protect
End If

Sheets("商品名").Select
ActiveSheet.Protect
Sheets("MENU").Select
Range("A1").Select
Application.ScreenUpdating = True
End Sub

```

明細連続印刷

'明細個別を連続ですることになります。

Sub 明細一括()

'データが入力されているかチェックします。

Application.ScreenUpdating = False

Dim 判定 As Integer

判定 = Sheets("入力表").Cells(5, 2).Value

```

If 判定 = 0 Then
    MsgBox "データが入力されていませんよ。"
    Application.ScreenUpdating = True
    Exit Sub
End If

```

'最初に、注意のメッセージ。

```

If MsgBox(prompt:="準備はいいですか。用紙はたくさん必要です。準備がよければ" &
Chr(13) & "印刷してください。(^.^)。", _
    Title:="OK ! (^.^)", Buttons:=vbYesNo) = vbNo Then
    Sheets("MENU").Select
    Application.ScreenUpdating = True
    Exit Sub
End If

```

'次に、商品の数だけ繰り返します。

```

Sheets("商品名").Select
ActiveSheet.Unprotect
Sheets("作業表").Select
ActiveSheet.Unprotect
' Sheets("印刷表").Visible = True
Dim 検索 As Integer
Dim 商品 As Integer
Dim 確認 As Integer
Dim 在庫 As Integer
検索 = Sheets("MENU").Cells(6, 5).Value
確認 = Sheets("MENU").Cells(4, 4).Value
在庫 = Sheets("MENU").Cells(10, 4).Value
Sheets("作業表").Select
ActiveSheet.Unprotect
Sheets("入力表").Select
ActiveSheet.Unprotect
Application.EnableEvents = False 'カーソル移動分解除
    If 在庫 = 2 Then
        Sheets("印刷表").Select
        ActiveSheet.Unprotect
        Range("L7:Q25").Select
        Selection.NumberFormatLocal = ";;;;" '在庫の部分为非表示にする
        Range("A1").Select
    End If

```

検索の数値には、区分Bの最後の数値をセット
準備が出来たら、

```

For 商品 = 1 To 検索
    For 組 = 1 To 枚
        Next
    Next

```

という感じ

'商品の種類の数を読み込む
'印刷方式
'在庫印刷の有無


```

For 商品 = 1 To 検索
  Sheets("入力表").Select
  Range("B5").Select          'オートフィルタをかけます
  Selection.AutoFilter
  Selection.AutoFilter Field:=5, Criteria1:=商品      '指定した商品を選択します
  Range("B5:N1100").Select    '選択された範囲をコピーします
  Selection.Copy
  Sheets("作業表").Select      '作業表に値のみ貼り付けをします
  Range("B5").Select
  Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _
    :=False, Transpose:=False
  Range("A1").Select
  Application.CutCopyMode = False
  Sheets("入力表").Select      'オートフィルタをはずします
  Selection.AutoFilter
  Range("A1").Select

```

'次に転記されたデータを整理台帳の形で印刷します。

```

Sheets("作業表").Select
Dim 組 As Integer
Dim 枚 As Integer
枚 = Cells(6, 18).Value
' 当期仕入分がなくても在庫がある場合には印刷をする
If 枚 = 0 Then
  Cells(5, 5).Value = 商品      '作業表 5行目E列にコード番号
  Cells(5, 7).Value = Cells(7, 16).Value  '作業表 5行目G列に容量
  Cells(5, 14).Value = Cells(5, 16).Value  '作業表 5行目N列に酒類
  If Cells(20, 17) = 1 Then      '在庫がある場合
    Cells(204, 2).Value = 1      '印刷させるため最後の行に数値をセット
    枚 = Cells(6, 18).Value      '1個でもあれば印刷します
  End If
End If
'在庫明細を書き加える
Sheets("作業表 2").Select
ActiveSheet.Unprotect
Range("B4").Select
Selection.AutoFilter
Selection.AutoFilter Field:=2, Criteria1:=商品
Range("C5:E1100").Select

```

```

Selection.Copy
Sheets("作業表").Select          '作業表に値のみ貼り付けをします
Range("P24").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _
    :=False, Transpose:=False
Range("A1").Select
Application.CutCopyMode = False
Sheets("作業表 2").Select        'オートフィルタをはずします
Selection.AutoFilter
Range("A1").Select
ActiveSheet.Protect
Sheets("作業表").Select
'一括印刷の場合はここでは止めません
Sheets("印刷表").Select
For 組 = 1 To 枚                'この部分は枚が 0 であればスキップします
    Range("T3").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = 組
    Range("A1").Select
    If 確認 = 2 Then
        ActiveSheet.PrintPreview          'ためすときはプレビューで
    End If
    If 確認 = 1 Then
        ActiveWindow.SelectedSheets.PrintOut Copies:=1 'ほんとのときは印刷を
    End If
Next
Sheets("作業表").Select          '作業終了後はクリアをしておきます。
Range("B5:N1100,P24:R1100").Select '念のために広範囲をクリア
Selection.ClearContents
Range("A1").Select
Next
    If 在庫 = 2 Then
        Sheets("印刷表").Select
        Range("L7:Q25").Select
        Selection.NumberFormatLocal = "G/標準" '在庫の部分を表示にする
        Range("A1").Select
        ActiveSheet.Protect
    End If
Sheets("作業表").Select          '作業終了後はクリアをしておきます。
Range("B5:N1100,P24:R1100").Select '念のために広範囲をクリア

```

```

Selection.ClearContents
Range("A1").Select
Sheets("入力表").Select
Range("A1").Select
Application.EnableEvents = True   'カーソル移動分セット
Sheets("商品名").Select
ActiveSheet.Protect
Sheets("MENU").Select
Range("A1").Select
Application.ScreenUpdating = True
End Sub

```

酒類報告書を3カ月単位に集計するものです。

- その1 最初に、「商品名」に商品の種類を登録します。
- その2 「商品名」のM列に期首在庫本数(O列に期末在庫本数)を入力します。
- その3 入力表に仕入明細を入力します。
- その4 「商品名」のO列に期末在庫本数を入力します。
- その5 「報告書」、明細一覧表の印刷が終わったら、更新処理を行います。
「入力表」、「報告書」のデータクリア、「商品名」の残高転記を行います。

「入力表」でのカーソルの移動は、ON OFF ボタンで変わります。
ON の場合は入力箇所のみ移動します。月の入力はオートフィルコピーを活用してください。
OFF の場合は、カーソルは飛ばずに1セルずつの移動になります。

保護を解除しての作業には責任をもちませんので、しないでください。挿入、削除、移動は厳禁です。

商品の種類として1000種類でこれを超える場合は利用できません。

3カ月分の商品の仕入データ件数は1000件までです。

中分類(区分A)毎に、明細表を集計しますが、200件を限度とします。

(3ヶ月間の一分類の仕入件数が200件を越えてはいけません。)

中分類の区分は300件までとします。区分Bにある数値が中分類の数になります。

シート 印刷表

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1			酒類別	0					容量別	0 ml					NO	0-1	
2																商品区分	0
3		仕入の部				仕入先				販売の部							
4		受け入れ又は 販売年月日	数量	銘柄	単価	価格	住所	氏名	数量	単価	価格	残高	欠減	摘要			
5			本		円	円			本			本	ml				
6		繰越			ml												
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
21																	
22																	
23																	
24																	
25																	
26																	
27			本	ml						本	ml		本	ml			
28																	

色のついているセルに式があります。

I	J	K
容量別	=作業表!G5	ml

L	M
=IF(報告書!I3="", "", 報告書!I3&報告書!J3&報告書!K3&報告書!L3)	

O	P	Q
NO	=作業表!R6&"-"&印刷表!T3	
	商品区分	=作業表!E5

受け入れ又は 販売年月日	数量	銘柄	単価
繰越	=作業表!Q11	=作業表!Q12	ml
	本		円

仕入計	B	C	D
		本	ml
	=IF(作業表!R6=T3,"仕入計", "")	=IF(作業表!\$R\$6=\$T\$3,作業表!Q13,"")	=IF(作業表!R6=T3,作業表!Q14,"")

売上計	J	K	L
		本	ml
	=IF(作業表!R6=T3,"売上計", "")	=IF(作業表!R6=T3,作業表!Q15,"")	=IF(作業表!R6=T3,作業表!Q16,"")

棚卸	M	N	O	P
			本	ml
=IF(作業表!R6=T3,"棚卸","")		=IF(作業表!R6=T3,作業表!Q17,"")		=IF(作業表!R6=T3,作業表!Q18,"")

一行目の式 仕入の部分
セルB7の式 仕入年月日
=IF(INDIRECT("作業表!B"&5+20*(\$T\$3-1))="",",CONCATENATE(" ",INDIRECT("作業表!B"&5+20*(\$T\$3-1)),"月",INDIRECT("作業表!C"&5+20*(\$T\$3-1)),"日"))
セルC7の式 数量
=IF(INDIRECT("作業表!I"&5+20*(\$T\$3-1))="",",INDIRECT("作業表!I"&5+20*(\$T\$3-1)))
セルD7の式 銘柄
=IF(INDIRECT("作業表!F"&5+20*(\$T\$3-1))="",",INDIRECT("作業表!F"&5+20*(\$T\$3-1)))
セルE7の式 単価
=IF(INDIRECT("作業表!H"&5+20*(\$T\$3-1))="",",INDIRECT("作業表!H"&5+20*(\$T\$3-1)))
セルG7の式 価格
=IF(C7="",",C7*E7)
セルI7の式 住所
=IF(INDIRECT("作業表!L"&5+20*(\$T\$3-1))="",",INDIRECT("作業表!L"&5+20*(\$T\$3-1)))
セルJ7の式 氏名
=IF(INDIRECT("作業表!m"&5+20*(\$T\$3-1))="",",INDIRECT("作業表!m"&5+20*(\$T\$3-1)))

IF関数はデータがない時に空白を表示するためのもの。これを省くと

セルB7の式 仕入年月日
=CONCATENATE(" ",INDIRECT("作業表!B"&5+20*(\$T\$3-1)),"月",INDIRECT("作業表!C"&5+20*(\$T\$3-1)),"日")
セルC7の式 数量
=INDIRECT("作業表!I"&5+20*(\$T\$3-1))
セルD7の式 銘柄
=INDIRECT("作業表!F"&5+20*(\$T\$3-1))
セルE7の式 単価
=INDIRECT("作業表!H"&5+20*(\$T\$3-1))
セルG7の式 価格
=IF(C7="",",C7*E7)
セルI7の式 住所
=INDIRECT("作業表!L"&5+20*(\$T\$3-1))
セルJ7の式 氏名
=INDIRECT("作業表!m"&5+20*(\$T\$3-1))

セルT3にはページ数があり、まずは 1 なのでこれをいれると

セルB7の式 仕入年月日

=CONCATENATE(" ",INDIRECT("作業表!B"&5),"月",INDIRECT("作業表!C"&5)),"日")

セルC7の式 数量

=INDIRECT("作業表!I"&5))

セルD7の式 銘柄

=INDIRECT("作業表!F"&5))

セルE7の式 単価

=INDIRECT("作業表!H"&5))

セルG7の式 価格

=IF(C7="", "",C7*E7)

セルI7の式 住所

=INDIRECT("作業表!L"&5))

セルJ7の式 氏名

=INDIRECT("作業表!m"&5))

INDIRECT 関数

指定される文字列への参照を返します。セル参照はすぐに計算され、結果としてセルの内容が表示されます。INDIRECT 関数を使うと、数式自体を変更しないで、数式内で使用しているセル参照を変更することができます。

INDIRECT(参照文字列, [参照形式])

INDIRECT 関数の書式には、次の引数があります。

参照文字列 必ず指定。A1 形式、R1C1 形式の参照、参照として定義されている名前が入力されているセルへの参照、または文字列としてのセルへの参照を指定します。参照文字列に適切なセル参照を指定していない場合、エラー値 #REF! が返されます。

参照形式 省略可能。

TRUE を指定するか省略。参照文字列には A1 形式のセル参照が入力されていると見なされます。

FALSE を指定すると、参照文字列には R1C1 形式のセル参照が入力されていると見なされます。

INDIRECT を使わないと次のようになります。

セルB7の式 仕入年月日

=CONCATENATE(" ",作業表!B5,"月",作業表!C5)),"日")

セルC7の式 数量

=作業表!I5

セルD7の式 銘柄

=作業表!F5

セルE7の式 単価
 =作業表!H5
 セルG7の式 価格
 =IF(C7="", "", C7*E7)
 セルI7の式 住所
 =作業表!L5
 セルJ7の式 氏名
 =作業表!m5

INDIRECT を使うと、
 セルT3にはページ数があり、これが 2 の時は次の内容となります。

セルB7の式 仕入年月日
 =CONCATENATE(" ", 作業表!B25, "月", 作業表!C25), "日")
 セルC7の式 数量
 =作業表!I25
 セルD7の式 銘柄
 =作業表!F25
 セルE7の式 単価
 =作業表!H25
 セルG7の式 価格
 =IF(C7="", "", C7*E7)
 セルI7の式 住所
 =作業表!L25
 セルJ7の式 氏名
 =作業表!m25

一行目から 20 行目まで同様です。 =INDIRECT("作業表!C"&5+20*($T\$3-1$)) の計算式で
 200 行準備してあるデータでも順次、表示できることとなります。

最下段には合計を表示する式ですが、ページ数が多い時は、その最終ページにだけ印字する
 ようにしたものです。途中のページには合計が印字されません。

セルB28の式
 =IF(作業表!R6=T3, "仕入計", "")
 セルC28の式
 =IF(作業表!\$R\$6=\$T\$3, 作業表!Q13, "")
 セルD28の式
 =IF(作業表!R6=T3, 作業表!Q14, "")

CONCATENATE 関数は、最大 255 個の文字列を 1 つの文字列に結合します。

スペースや句読点を結果に表示したい場合には、それらを、二重引用符で囲んだ引数として指定する必要があります。(" ") はスペース文字です。

書式

CONCATENATE(文字列 1, [文字列 2], ...)

商品名並替

大中小の順番で小さい順に並べ替えます。

Sub 並替商品名()

ActiveSheet.Unprotect

Range("B6:P1004").Select

```
Selection.Sort Key1:=Range("B6"), Order1:=xlAscending, Key2:=Range("C6") _  
    , Order2:=xlAscending, Key3:=Range("D6"), Order3:=xlAscending, Header:= _  
    xlGuess, OrderCustom:=1, MatchCase:=False, Orientation:=xlTopToBottom, _  
    SortMethod:=xlPinYin, DataOption1:=xlSortNormal, DataOption2:= _  
    xlSortNormal, DataOption3:=xlSortNormal
```

Range("B2").Select

ActiveSheet.Protect

End Sub

在庫転記

Sub 残高転記()

' 商品の棚卸転記

```
If MsgBox(prompt:="期末棚卸を期首繰越に転記します。よろしいですか。", _  
    Title:="OK ! (^.^)", Buttons:=vbYesNo) = vbYes Then
```

ActiveSheet.Unprotect

Range("P5:P1004").Select

Selection.Copy

Range("N5").Select

```
Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _  
    :=False, Transpose:=False
```

Application.CutCopyMode = False

Range("P5:P1004").Select

Selection.ClearContents

Range("A1").Select

ActiveSheet.Protect

End If

End Sub

こちらが処理時間が早いです

```
Range("N5:N1004").Value = Range("P5:P1004").Value
```

```
Range("P5:P1004").Value = ""
```


私のマクロの作成方法は、基本的に「マクロの記録」を利用して作成します。

手作業で行う必要な表を作り、この作業を行う最短の手順を考えてから、マクロの記録でその作業内容を取ります。その上で、無駄な部分を削除して行きます。さらに、加えて分岐や確認などの部分を、打ち込みをしていきます。

マクロを作成した直後は、その内容は分かりますが、長時間経ちますと、何の作業をしているのか分かりにくくなります。注釈を入れておくと、再修正などの時の時間が短縮されると思うので、できるだけ注釈を入れるようにしています。

マクロの作業内容を確認する方法、

シートの保護を解除します。フォームのボタンを右クリックします。

そのメニューの中から、マクロの登録を選び、左クリックします。

マクロの登録のダイアログボックスが出て、そのボタンに登録されているマクロの名称が見えます。

編集ボタンを左クリックすると、ビジュアルベーシックエディターが起動し、当該マクロ位置にカーソルが移動します。

ビジュアルベーシックエディターの画面を縮小して、エクセルのシートと両方が見えるように調整します。

ファンクションキーの8(F8)を押すと、マクロのスタートのサブの位置が黄色になります。

順次、F8を押すと、命令が一行ずつ実行されていく様子を見ることが出来ます。

マクロの各命令の細かい内容はわからなくても、その命令が何をしているのかが、おぼろげながら理解できるような気がします。

何度も、試しているうちに本当に理解できるようになります。

マクロの自動記録

ツール マクロ 新しいマクロの記録 マクロの登録のダイアログボックスが出ます。

マクロ名とブックの保存先が作業中のブックであることを確認し、OKボタンをクリックします。

記録させたい実際の作業を行います。作業が終了したら、ツール マクロ 記録終了とクリックします。

ツール マクロ マクロ でダイアログボックスが開き、先ほどのマクロ名を選択して、編集しボタンを押せば、ビジュアルベーシックエディターが起動し、当該マクロ位置にカーソルが移動します。

このマクロを編集して使いやすいものにしていきます。